

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 CH21 2/6~2/8 完全糸状態+現在前兆継続→第14ステージ認識

No.1778長期継続特殊前兆の続報、現況報告、検討報告です。

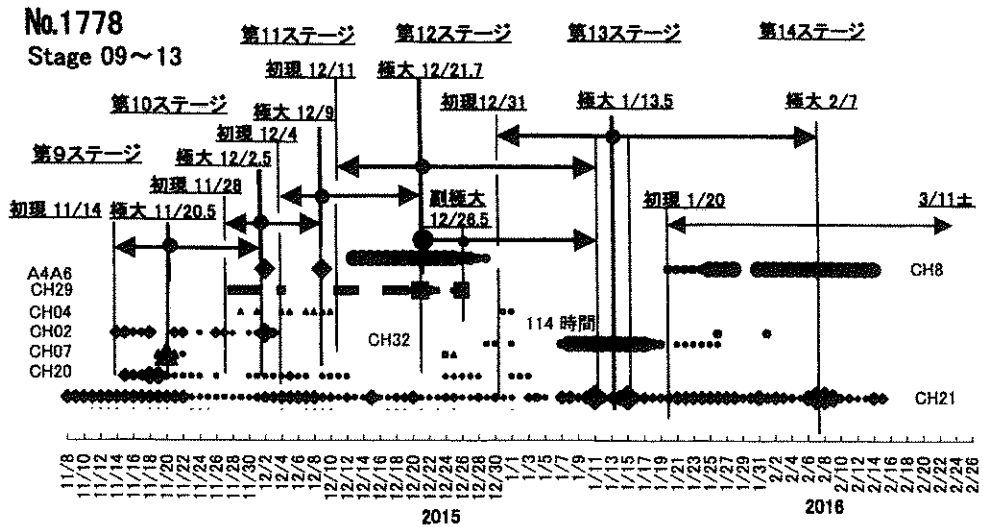
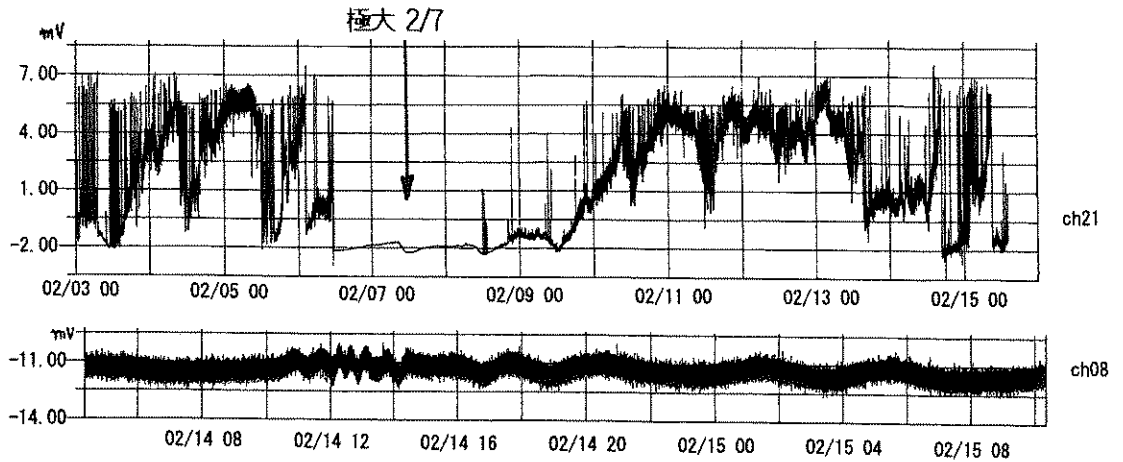
2/8 配信のNo.2739実験観測情報で、第13ステージ認識の継続中前兆CH21特異状態が、2/6 朝から完全糸状態の特異状態となったことを波形を掲載して報告致しました。

但し、BT-2と同様に静穏化直前に顕著化した可能性も検討致しました。実際、2/9 には糸状態を脱し、基線変動が出現いたしました。

しかしその後もCH21の特異状態は継続し、本日2/15 夕刻現在も継続中です。

前報告までの第13ステージ認識の初現が2015.12/21~12/23 で、極大2016.1/13 が正しい場合には、2/12~2/14に前兆が終息するはずであることを計算報告致しました。本日2/15前兆が継続していることから、この認識が誤りであることが明確です。

上図の様に第13ステージの初現をCH04の特異初現である2015.12/31とし、極大2016.1/13.5 としますと、2/7.6±が計算されます。2/7 中心のCH21の完全糸状態時期です。つまり 2/7中心のCH21完全糸状態は極大である可能性が考えられます。現在No.1778の他にNo.2710 前兆があります。No.2710前兆の中でNo.1778前兆が混入していないか、識別間違いがないか再調査しました。その結果、八ヶ岳



のCH08の振動型BF前兆が関連がある可能性が出ました。上波形参照。2015.12/21の第12ステージ極大時期と 2/7中心時期に出現しています。このCH08の微弱なBFが1/20から確認できます。

このことから、第14ステージ (2/7 極大) の初現を1/20として、Tfap:Tmap=20:13 経験則で計算しますと、3/11±時期が計算されます。

この認識が正しい場合は、現在も前兆が継続し、3/3±に終息することが推定されます。実際の終息変化を確認観測し、修正予定です。本認識が正しい場合は、03月初旬以前迄は、地震発生の可能性は否定できません。安全です。

前代未聞の観測例の無い長期前兆で、これほど判りにくい前兆出現形態は初めての体験で、認識間違いを致しましたこと、深くお詫び申し上げます。

No.2710は再検討中。他に関東を含め被害地震が推定される前兆はありません。

◆推定領域：右図 大枠推定領域=点線領域内
可能性考え易い推定域=太線領域内
※特に斜線領域付近の可能性考え易い

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：現認識が正しい場合=3月11±3
※実際の前兆終息を確認して発生日修正予定

◇推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
◇推定発生時刻：午前9時±1 (or午後6時±3)

